

令和 2 年度(2020 年度)第 1 回公民館運営審議会 議事録

【開催場所】 書面開催

【発送日時】 令和 2 年(2020 年)9 月 3 日 (木) 審議資料発送

1.令和 2 年度(2020 年)第 1 回公民館運営審議会の成立について

委員 15 名中 15 名の審議をいただいたことから令和 2 年度(2020 年)第 1 回公民館運営審議会は成立。

■ 公民館運営審議会委員

澤田	道夫	委員
山西	裕美	委員
山城	千秋	委員
上妻	昭仁	委員
崎坂	謙三郎	委員
成清	信彦	委員
坂梨	一也	委員
戸野口	庄子	委員
寺井	伸行	委員
山田	はる美	委員
稲田	憲生	委員
福島	貴志	委員
田中	百合花	委員
坂梨	重光	委員
松下	みゆき	委員

以上 1 5 名

【資料】

- ・「令和 2 年度(2020 年度)第 1 回公民館運営審議会」会議資料
- ・「令和 2 年度(2020 年度)第 1 回公民館運営審議会」別冊資料
- ・参考資料(関係法令他)
- ・「令和 2 年度(2020 年度)第 1 回公民館運営審議会」諮問書兼意見書

2. 意見内容について
報告（1）令和元年度（2019 年度）事業報告について
意見照会事項
【「I 令和元年度事業報告」の 1～3 及び 5（会議資料 3～21 及び 30～31 ページ）】公民館の利用状況・主催事業・自主講座等、令和元年度（2019 年度）事業報告に関し、ご意見を願います。 ※講座数や参加者数については、新型コロナウイルス感染拡大の影響で 3 月の事業が実施できなかったこともあり、全体的に減少傾向となっています。
報告（1）に対するご意見
・今年度の事業も社会や住民の要請・ニーズに応えるものとなっており、まちづくり等に活かされていると評価できる。特に近年増えつつある風水害に備える学習が熊本地震以降も継続されていることに市民の課題意識と学習意欲を読み取ることができる。 ・教養講演会の内容が、幅広い分野が網羅されており、また、LGBT・SNS 問題等現代的課題についての問題も取り上げられていることで、受講者の興味をひくものになっていると感心した。 子どもチャレンジ公民館事業が興味深かった。学校の総合的な学習の時間等でも実施したい内容であるが、実現が難しい取り組みでもある。これからの社会生活で生きる力を、社会教育の面から補完していける取り組みだと高く評価する。 ・コロナ禍の中、講座の数が 5 から 81 と自主講座実施状況にばらつきがみられるが、仕方ないと思う。年齢別比率を見ると 60 代以上が多く、乳幼児・中学生・15 歳から 19 歳が他と比較して極端に少ないと感じた。 ・コロナ禍における公民館運営は大変なことと拝察する。 「子ども講座」について統計で見ると年々参加数が少なくなっているような印象を受ける。各館において志向を凝らした講座がおこなわれているので、本来であれば参加数が増えてきてもいいのかもしれないがもったいない気がする。小学校における部活動等がなくなっている中、子どもたちの活動の場としての公民館の活用は有効かと思われる。 ・令和元年度の事業報告については、各公民館、きめ細かい計画・実践で参加人数も多く密度の濃い活動ができていると思う。教養講演会の講師についてはできる限り新しい方の人選を希望する。 ・人口減少なので仕方のないことだ。公民館の PR をして、自主講座を多く開催すれば利用者も少し増加するのではないか。 ・子ども向けのイベント・講座も多くあり、内容も充実しているように見える。せっかくなので、もっと子どもたちへアピールしていくと参加者が増えるのではないか。

・それぞれの公民館が様々な世代を対象に特色ある事業を行い、参加者も主催者も「良かった」「嬉しかった」「楽しかった」「ためになった」等のことが聞かれたのでないかと思った。また、それに伴い反省点もあったと思う。今後反省点を検討し、さらに1人でも多くの市民が楽しめる生涯学習の場を提供していただきたい。

・各公民館、事業内容を工夫して実施されていると思った。

・コロナ禍の中で活動が困難であったと思う。その中で様々な団体等と連携を図りながら進めてこられたことを評価する。誰もが経験したことのない状況の中で新しい公民館のあり方が今後問われると思う。情報を共有しながら安心して地域の方々が利用できる運営が今後求められる。また、情報発信の場として今後期待する。

・教養講演会では熊本で活躍されている方々や熊本ならではの話が聞けるとともに、交流ができてとてもいいと思う。小学校の部活がほとんどなくなってしまったが、クラブチームに入ったりして忙しい子とそうでない子の差（体を動かしたり、団体行動等）が出ているように感じる。子ども講座で充実した内容が多いため、活用できたらいいと思う。西里分館や北部東分館でされた放課後子どもものづくり教室等放課後に行われているものは魅力的だ。

その他にも防災について学べる機会や、認知症、スマホ、プログラミング、ヨガ、オカリナ、ドイツ語、英会話、韓国語等生きる目標・楽しみを見つけられそうな講座がたくさんあり素晴らしい。

・公設公民館事業も多岐にわたり、日々進化し様々な観点から市民のニーズに応えるべき活動報告に感銘を受けた。

日増しに変貌する社会問題に対処できることが身近な公民館の重要な役割かもしれない。「学びを生かす活動」は受講生にとって活力になる。「コト」が横割れに移行し、拡大イベント効果や盛り上がりとなれば先の見込みも出てくる。様々な人材育成講座でもリーダーが地域まちづくりの基盤形成を担う。更に開設講座の多様な展開により多くの効果や今後の議題が見え、気づきを与えることが事業の使命かもしれない。

公民館の利用者も万人単位で社会貢献度も非常に高いと思う。

・総まとめの時期である3月に活動及び事業の推進ができなかったのは大変残念だったと思う。しかしながら、大半の活動はできていたため事業は達成できていると思う。

報告（２）令和元年度（２０１９年度）重点事業の実施状況について
意見照会事項
【「Ⅰ 令和元年度事業報告」の４（会議資料 ２２～２９ ページ）】 令和元年度（２０１９年度）の重点事業として取り組んだ「（１）学習機会（公民館講座）の充実」、「（２）学習成果を生かす環境づくり」、「（３）家庭教育支援の充実」の３つの項目の実施状況に関し、ご意見ををお願いします。
報告（２）に対するご意見
・熊本市は制度としてのコミュニティスクールは実施していないものの、実態としては公民館が中心となり学校・自治会・PTA とつながることで十分にその機能を果たしている。各事例からはコミュニティスクールと言わなくとも、すでに関係性や連携が形成されていることは高く評価できる。 ・「（２）学習成果を生かす環境づくり」について、小中学校でのゲストティーチャー等で学びを発信してもらえるのは、双方にとってメリットが多い取り組みである。本校でも、総合的な学習の時間での地域学習の講師として参加していただいたが、とても専門的な内容まで学習しており、その学びをわかりやすく説明していただくことができ、大きな手ごたえを感じた。人材の情報をしっかり集めて活用させていただきたいと思った。 ・（１）については、地域防災や災害時の「自助」「共助」の意識向上につながったのは成果だと思う。また、市民の人権意識の高揚を図るようなハートフル講演会も実施されており、とても素晴らしい取り組みだと思う。L G B T等の新しい人権課題等もぜひ、取り入れていただきたい。 ※事務局回答 一部の公民館で L G B T 等の講座を実施しており、今後も新しい人権課題について、講座を幅広く展開していきます。 （２）については、ボランティア・地域人材の養成や公民館での学習成果を公民館・学校・地域等のそれぞれの場所で生かす取り組みが繰り広げられ、地域のまちづくり活動や地域コミュニティの形成に貢献されていると感じた。 （３）については、親の学び講座や参加体験型等定着し、学びの楽しさが味わえるものも開設されており、今後の更なる創意工夫が期待される。 ・「学習機会の充実」、「成果を生かす環境づくり」については十分に重点項目として充実した取り組みがなされていると思う。 「家庭教育支援」については、それぞれの教育現場での啓発をもっと進めていきたいと考えている。 ・３項目が適切に運用されていると思う。それぞれの項目がマンネリ化することなく市民の希望に沿って設置されることを希望する。特に家庭教育支援の充実については男性の参加が少ないようだ。家庭教育学級そのものが現代の家庭教育に合致しているかどうかから考えてほしい。

・ボランティア活動をする方々は多い、また地域にその道の人材も多い。このような方々を探して公民館の活動にされてみてはどうだろうか。

・地域の学校・PTA と連携して取り組まれることは保護者も学びの機会が増えてとてもいいことだ。ぜひ拡大してほしい。

・重点事業の実施について、それぞれの課題にしっかりと取り組まれた様子が分かった。

中学校の家庭教育学級の開設数が少ないように感じた。(28 ページの表による) 29 ページの今後の課題の中にもあるように家庭教育学級の意義をぜひ中学校にも伝えてほしい。開設するにあたりいろいろ難しい点もあると思うが、中学校でなければできない学習内容等を考えてみてはどうだろうか。

・各事業とも成果と課題がよく分析しており、次回以降の事業に反映されたいと思った。

・(1) 学習機会の充実について。熊本地震から 4 年が経過した中で防災に関しての高まりにつながり地域活動の推進につながっていると思う。それを高めるためには人権意識を高めることが重要で SDGs の理念「誰ひとり取り残さない」を広げることが大切だと思う。(2)学習成果を生かす環境づくりについて。ボランティア・地域人材の育成は目に見えない部分があり、息の長い活動が必要だ。今後も課題を共有しながら人材育成の拠点づくりとしての活動を期待する。

・食生活改善推進委員さんによる料理教室、あそどっぐさんのトークライブ、清水誠一郎さんの「子どもたちの未来のために」の講演、地域の消防署見学等参加してみると充実した内容が多い。家庭教育学級に関する講演会の実施について、現代は父母共に働いているところが多いため、内容が充実していても参加者が少ない。幼稚園、小学校の保護者では子どもの急な病気等でのドタキャンも少なくない。そこで一般市民にも公開することで参加者も増え、保護者だけではなく地域の方々との交流もできると思う。

家庭教育学級のあり方として、学級長や学級員の負担が大きく感じられていたが、公民館側から講座を提案してもらうことがあり、やりやすくなったと感じた。あと、保護者全体を学級生としての講座・講演等への呼びかけをすると参加者が増えると感じる。学級生として 10 年、学級長として 5 年ほど経験させてもらったが、家庭教育学級を知らない保護者もたくさんいるので、保護者＝学級生とできないのかと考える。

・(1)について・・・多岐にわたる防災・人権の講座や講演会は包括(全体)像を抱える上で印象付けが重要でさらに推奨してほしい。第 1 回審議会 24 ページ上文から 5 行目の連携相手にとってプラスになる反面負担が大きいと連携が困難になるとあるが、対象が個人・団体・「コト」等をしめすのか。

※事務局回答

連携の対象は NPO 法人や庁内関係課などです。会場の設定次第では、地理的な問題から連携相手の負担になっているという声もあります。

(2)について・・・学びを生かす活動は今後の重点テーマだ。今後さらなる相互のニーズ講座の披露や現代的ニーズ(自然災害、疫病)等重要議題が浮上している。

(3)について・・・教育に関わる関係相互の協働の中でよくワークショップ形式がとられるが、経過より事例回答を先に指し示し当事者が抱える議題に対して「気づき」を与える。早期解決の手段を進める。

・全体的にわかりやすくまとめてあったと思うが、24 ページにある「取り組めていない課題」とはどのような分野や項目なのか知りたい。

※事務局回答

市が取り組む人権重要課題の中では女性、自死遺族、ホームレス、拉致被害者等の分野に取り組めていませんでした。

・(3)の家庭教育支援である親の学び講座等に関して。親でないとダメなのか。地域住民では参加できないのか。予算の出どころ等の諸事情もあると思うが、市民・住民枠を設けて少数でも空席があれば参加させてもらいたい。

※事務局回答

公民館での親の学び講座等は、主に家庭教育学級の学習の一環として、学級生である保護者が主体的に実施しているものであるが、保護者以外の方が市民枠として受講できる場合もあるので、希望される家庭教育学級を開催している該当の公民館へ相談してください。

議事（1）令和２年度（2020年度）重点事業計画(案)について
意見照会事項
【「Ⅱ 令和２年度(2020年度)重点事業計画(案)」(会議資料33ページ)】 令和２年度(2020年度)重点事業計画（案）に関し、ご意見をお願いします。 ※昨年度重点事業３項目に加え、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、休館等余儀なくされている状況のもと、講座の動画配信等新しい生活様式に対応した公民館事業に取り組んでいくこととしています。
議事（1）に対するご意見
・動画配信は今後コロナウイルス終息後も利用できる手段なので、充実をお願いしたい。 ・IT・ICT化に向けて取り組みが必要だと思う。また、成人のリカレント（IT関連）教育の充実が望まれる（失業対策・求職対策としても）。 ・熊本地震の際にも公民館が閉鎖して多くの学習者が学ぶ機会を失った。その経験から現在閉館中であっても(4)のような実践が早く望まれる。社会教育は不要不急の営みではないし学校と同じ社会教育の学びも止めてはならない。自主講座の中止はその意味で危機的である。 ・「家庭教育支援」の充実に関して、できるだけ子どもが小さい時期から、発達障がいについての理解を深めていくことが必要だと感じている。親の無理解や社会の偏見等で、きちんと対応してもらっていればしなくてもいい苦勞を子どもたちに負わせているようなケースを多く目にする。今後、支援を必要とする子どもたちがもっと増えていくと懸念している。喫緊の課題だと考えている。 難しい状況だが、新しいアイデアを試せるチャンスでもあると思う。新たな発想での拡充を期待する。 ・（１）（２）（３）については、施設の閉鎖等もあり、コロナ感染拡大防止の観点から今後も厳しい状況が予測される。「with コロナ」の考え方で何ができるのかを探ってもらいたい。 （４）の新しい生活様式に適応した事業の展開については、ぜひ、オンライン化やスマホ等のSNS環境を駆使して、オンライン講座で市民に「笑顔」や「うれしさ」「たのしさ」を与えていただきたいと思う。 ・新しい生活様式に適応した工夫は大切であると思う。何もしないことでは何の解決にもならない。動画配信等もある意味有効かと思う。 また、このような状況下で子育て世代の方に対する家庭教育支援について、うまく手を差し伸べきれていない状況にある。既存の組織等の連携（幼・小・中学校等）を強化していかなければならないと考える。 また、せっかくこれまで築いてこられた学習機会充実の取り組みが、休館等のため途切れてしまうことで中心に活躍されていた方々の健康面等も心配だ。福祉当局とも連携した取り組みが大切になってくると思う。

・時代に合った事業計画だと感じた。市民が納得するアイデアあふれる事業を期待する。

・(1)～(3)について実施していただきたい。

・(1)～(3)について。前年度同様の活動を進められると思う。コロナ禍の中で今まで通りの活動は困難だと思うが、皆様の働きに敬意を表する。今年度は(4)の取り組みが非常に大切だと思う。新しい生活様式に適応した事業を展開しながら、課題を共有し、地域の方々の継続した学習機会の充実、学習成果を生かす環境づくり、家庭教育支援につなげて頂きたい。

・多種多様な職業があり、多種多様な家庭がある現代。地域の特色を生かした活動をどう考えていくか知りたかった。

家庭教育に関しても、親の学び講座や参加体験型講座の実施はコロナ感染症拡大防止するには厳しい状況に思える。

支所と併設されている公民館もあるので、書面での講座のようなものをして、支所に用事があり、訪れた人（親）でも学べるようにできたらいいと思う。

・講座活動の自粛の中、事業展開も新しい生活様式に対応した幅広い情報提供や動画配信、ICT 関連講座への移行実施も当然と思う。公設公民館の姿は住民が集い人生のあり方等を問う「場」でもある。地域まちづくりの要となる。リーダー養成や活動の場の確保も不可欠である。私は地域での波及効果や盛り上がり期待している。公民館で切磋琢磨して得た「知」は地域まちづくり（支え）として貢献している。

「持続可能」がある限り未来を見据えて子どもから大人世代まで学び集う公設公民館「拠点」が新型コロナウイルスの好む「密」に置き換えられそうな現実に懸念を抱いている。

新型コロナの早期終息を願う。

・(4)について大変期待している。(4)-①動画配信では公民館スタッフが録画等の手伝いや機器の貸し出し、部屋の手配等ができると思う。また、新たな講師の発掘ができ、マンネリ化した講座から脱却し、新しい分野への広がりも期待できる。従来活躍されている方も SNS デビューや新しい体験ができ、個人の視野も広がると思う。(4)-②ICT 講座について公民館が主体となって地域の町内会会議や集会の ICT 講座開催の手伝いや補助をしてはどうか。オンライン会議に関して、年齢層が高いとなかなか広がらないが、一部の会場（公民館）を使いながら、個々人を結ぶネットワークづくりの相談の場としてスタッフの力も生かせると思う。

※その他、全般にご意見等ございましたら、ご記入くださいますよう
よろしくお願いいたします。

・生涯学習の拠点施設が「公民館」である。0歳児から高齢者までのすべての市民の学びの場として、益々、すべての人に親しまれ、愛されるようなコミュニティの場となることを願う。

学校教育と社会教育の融合（学社融合）という観点や「社会に開かれた教育課程」の視点に立った取り組みも社会教育主事を中心に開発されているので、継続していただき、さらなる創意工夫を切に願う。

・「予想もされない時代がやってくる」ということはまさに現在の状況であるかと思う。そのような中この環境で、全ての人から失われているものがコミュニケーションの機会である。ICT 機器等様々なツールを使って行うコミュニケーションについてその有用性は理解できるが、やはり人と人が対面して行うコミュニケーションに勝るものはない。学びも同じであり、どのような機器を用い、方策を講じたとしても人と対面し、人と直接関わりながら学ぶことに勝るものはないと思う。（分野にもよるが）

一日も早くこの危機が終息し、全ての人がお互いに関わり合い、磨き高め合っていける世の中が訪れることを心から願うばかりだ。

・今年はコロナウイルスの影響で何もできなくなっているが、あまりにもコロナウイルスで中止というのともいかなものかと思う。

・今回の報告を見て公民館で行われていることを知ることができた。ぜひ広くアピールしていただきたい。

・コロナ禍の中で学校休校等もあり、家庭教育支援がより一層重要になると感じている。各団体との連携をさらに進めてほしい。

・私の実家は田舎だったからか公民館は緩い感じで気軽に行けて楽しめた場所だった。熊本市に住むようになり、子どもと児童館に行きはじめ、その時は児童館主催での運動会や行事もあり、児童館の先生がとてもあたたかく関わってくださったので、楽しく子育てができた。

子どもの成長に伴い、公民館との関わり方が自分自身にかわっていき、子どもたち自身もそれぞれで公民館に関わっていくにあたり、よく言えば冷静になっていった。

中高生になった子どもたちは行動範囲も広くなり、遊び方も変わっていき、公民館とは縁遠くなっている。もっと学生が気軽に公民館を利用できるように、使用料を安くする等して欲しい。ネットカフェやカラオケ等で勉強するよりも、会議室を使わせてもらい、地域の拠点としての公民館利用をできたらいいと考えている。

図書館利用については、電子図書館を利用するようになった。人と密にならずに子どもに読み聞かせはできるし、返却も簡単にでき、とても便利だ。

・予期せぬ新型コロナの影響で公民館講座の住民参加ができず家庭で「孤立化」が大変心配である。不健康になり、今以上に認知症が進むだろう。職場を定年退職して公民館講座等に参加するにしても、今まで生きてきたプライドが妨げになり、なじむまでにかかなりの時間がかかる。

学習機会の選択は様々で、気楽に参加でき、会えて会話も弾む。また、費用負担も少なく公民館講座に勝るものはない。

ちょっと「体」「足」「手」を動かし公民館へ出かける。ちょっと顔を見に出かけることも健康の第一歩である。60代、70代の受講利用者が多いのも納得できる。15歳～19歳の利用者の対象となる「コト」が足りない。

清水公民館での自主講座の受講の多さに驚いた。主催事業の参加者も数万単位でかなりの社会貢献度だと思う。

公設公民館（生涯学習）は住民の人と人の交流発信拠点である。

・公民館長も女性が増えて、近い将来は半数を占めてほしい。もう少し入りやすい公民館になって欲しい。（男女共同参画の視点から、熊本市は遅れていると感じる。）